



2024.2.9

2024年3月期 第3四半期 決算説明会資料

セイノーホールディングス株式会社 (9076)

目次

01

2024年3月期 第3四半期 決算概要

02

2024年3月期 業績予想・配当予想

03

輸送事業（特積み）について

Appendix

本日お伝えしたいこと



- お客様（製造業・小売業など）の値上げの動きが続き、**最終消費者の購入量減少**が続いたため、**国内の輸送物量も低調な推移**が続き、第3四半期の**営業利益は前年同期比16.1%（3,948百万円）の減益**となりました。
- 輸送事業は、第3四半期が最も物量の多い四半期であり、物量は前年を下回ったものの、営業利益の減少幅は縮小した。（前年同期比 上期▲36.8% → 3Q【3ヵ月】▲17.7%）自動車販売、物販、不動産、その他事業は増益でした。
- 輸送事業での適正運賃収受による緩やかな単価改善が続く中、来期を見据えた交渉の効果が第4四半期に期待できることもあり、**通期の業績予想は据え置き**としました。
- 輸送事業については、物量に強い回復の兆しは見られていない状況、自動車販売事業についても、ダイハツ工業や豊田自動織機に関連する新車販売への影響が見通せない状況で、注視しながら施策展開の加速を図っていく必要があると考えています。
- **株主還元の方針に変更はありません。配当予想は、DOE4.0%による期末配当を57円（+5円）、年間配当100円（+5円）に修正**しています。



01 2024年3月期 第3四半期 決算概要

P / L : 増収・減益



第3四半期は、輸送事業の物量減少幅が縮小し、営業利益の前年同期比は改善

単位:百万円	22.12	23.12	前年同期比	通期進捗率
売上高	472,814	486,767	+3.0%	76.3%
売上総利益	58,974	57,326	▲2.8%	
(粗利益率)	12.5%	11.8%	▲0.7pt	
販売管理費	34,466	36,767	+6.7%	
営業利益	24,508	20,559	▲16.1%	82.5%
(営業利益率)	5.2%	4.2%	▲1.0pt	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,083	13,161	▲23.0%	81.7%

売上高

前年同期比 **+3.0%** 通期進捗率 **76.3%**

輸送事業は物量減により減収となったものの、自動車販売事業や物品販売事業での増収により13,952百万円の増収

営業利益

前年同期比 **▲16.1%** 通期進捗率 **82.5%**

輸送事業の物量が大きく落ち込んだことによる減益を、自動車販売事業などの増益で一部カバーしたものの3,948百万円の減益

四半期純利益

前年同期比 **▲23.0%** 通期進捗率 **81.7%**

輸送事業での物量減による減益に加え、持分法投資利益の減少などもあり3,922百万円の減益

事業の概要：輸送事業は減収減益

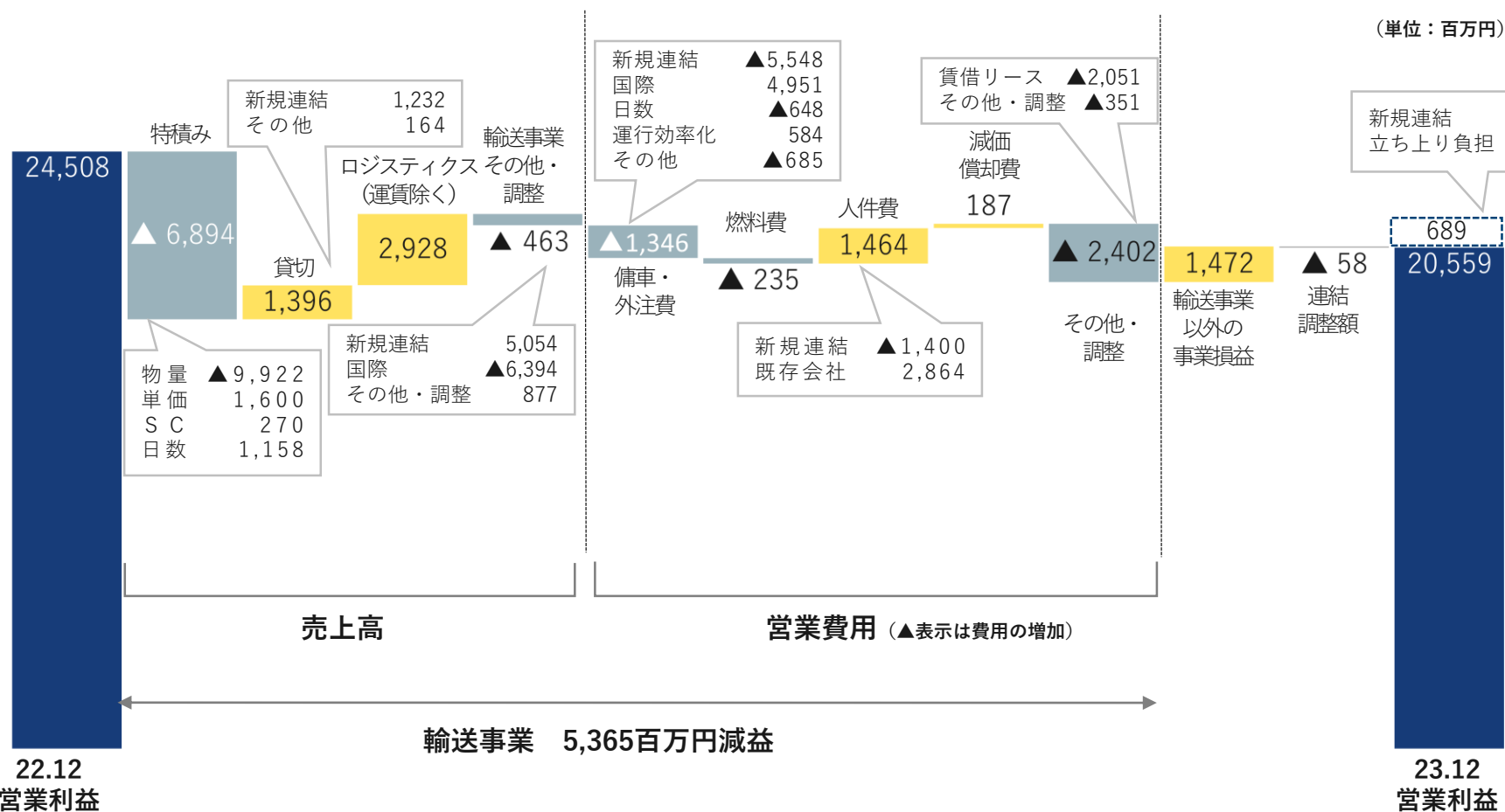


単位:百万円	売上高 (前年同期比) 【通期進捗率】	営業利益 (前年同期比) 【通期進捗率】	23.12 事業概況	KPI
輸送事業	356,807 (▲0.8%) 【75.4%】	13,535 (▲28.4%) 【78.0%】	<p>売上高 ロジスティクスの伸長に加え、新規連結の効果はあったものの、特積みの物量が4.1%減少したこともあり減収</p> <p>営業利益 第3四半期(3ヵ月)の営業利益は、前年同期比▲17.7%となり減益幅は縮小(参考：上期前年同期比 ▲36.8%)</p>	<p>特積 前年同期比 物量 95.9% (日当り) kg単価 100.7% (一般+ミニ)</p> <p>ロジスティクス 前年同期比 売上 110.1% (発送運賃除く)</p> <p>貸切 前年同期比 売上 103.8% (西濃運輸 106.3%)</p>
自動車販売事業	81,817 (+23.2%) 【81.1%】	4,990 (+26.7%) 【95.0%】	<p>売上高 メーカーの生産台数の回復により、完成車の納車が進んだことで増収</p> <p>営業利益 販売台数の回復による売上増加に加え、トラック販売でのメンテナンス利益の増加により増益</p>	<p>新車販売台数 前年同期比 乗用車 14,185 台 (131.2%) トラック 1,716 台 (132.0%)</p>
物品販売事業	27,342 (+8.9%) 【77.8%】	852 (+34.8%) 【89.8%】	<p>燃料価格の上昇に加え、家庭紙販売が好調であったこともあり、増収・増益</p>	
不動産賃貸事業	1,673 (+1.9%) 【75.3%】	1,228 (+1.6%) 【74.6%】	<p>ボヌール芝浦・ボヌール大井などが寄与し、増収・増益</p>	
その他	19,126 (▲3.5%) 【71.8%】	1,244 (+17.1%) 【95.6%】	<p>情報サービス、人材派遣業などの伸長により、減収・増益</p>	

連結営業利益の増減要因（前年同期比）



貸切・ロジスティクスの伸長や新規連結の効果は継続し、
第3四半期には物量の減少幅が縮小したものの、前年割れは続き、営業利益は減益



営業費用



人件費や減価償却費の減少があったものの、自動車販売事業での販売台数の増加や、新規連結の影響もあり、営業費用は増加

単位:百万円	22.12	23.12	前年同期比	コメント
人件費	164,482	163,852	▲629 (▲0.4%)	新規連結による影響額 1,400百万円 新規連結を除く影響額は、▲2,029百万円と業績に連動した
燃料費	13,707	13,867	+159 (+1.2%)	第2四半期以降、燃料単価が前年比で上昇したことにより増加
減価償却費	16,036	15,949	▲86 (▲0.5%)	車両・運搬具 ▲291百万円 建物・構築物 226百万円
備車料・取扱手数料・外注費	133,942	135,289	+1,346 (+1.0%)	新規連結による影響額 5,548百万円 運行便の効率化 ▲584百万円 国際運送原価の減少 ▲4,951百万円
その他	120,137	137,248	+17,111 (+14.2%)	自動車販売事業での、車両販売台数の増加に伴う仕入れ代金 16,084百万円の増加
営業費用合計	448,306	466,207	+17,901 (+4.0%)	

自己株式の消却・取得を実施



1. 自己株式の消却を実施

消却株式数 20,000,000株 (6/27)

2. 自己株式の取得状況 (1/10終了)

取得株数 14,149,100株

取得金額 29,999,684,739円 (100%)

(1/4~1/10の取得分 108,500株 234,992,450円)

3. 株式の状況 (12/31現在)

発行済株式数 187,679,783株

(自己株式) 14,140,811株 (信託保有分除く)



02

2024年3月期 業績予想・配当

通期業績予想は据え置き



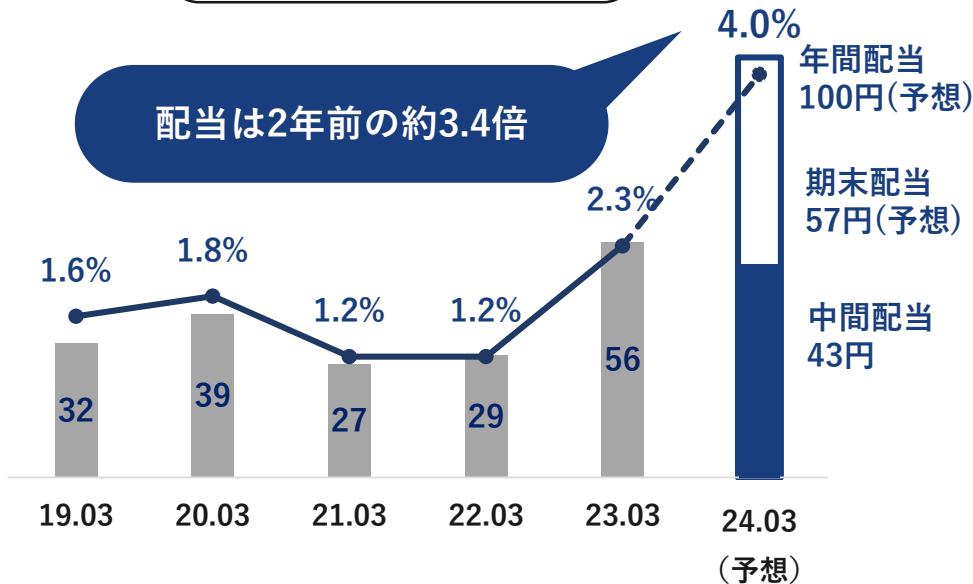
単位:百万円	24.03 (予想)	23.03 (実績)	増減額 (前年)	増減率 (前年)	コメント
売上高	638,110	631,507	6,602	+1.0%	
輸送事業	473,214	474,701	▲ 1,487	▲0.3%	【輸送事業】 <特積み物量想定> 通期 96.2%
自動車販売事業	100,898	94,209	6,689	+7.1%	
物品販売事業	35,150	33,517	1,632	+4.9%	<特積み単価想定> 通期 101.6%
不動産賃貸事業	2,222	2,191	30	+1.4%	
その他	26,624	26,886	▲262	▲1.0%	【自動車販売事業】 ダイハツ工業や、 豊田自動織機の関係などでの 新車販売への影響額は、予想 数値に織り込んでおりません。
営業利益	24,918	28,501	▲ 3,583	▲12.6%	
輸送事業	17,353	21,869	▲ 4,515	▲20.6%	
自動車販売事業	5,253	4,709	544	+11.6%	
物品販売事業	948	800	148	+18.5%	
不動産賃貸事業	1,647	1,614	32	+2.0%	
その他	1,302	1,174	128	+10.9%	
調整額	▲ 1,587	▲1,666	78	-	
経常利益	26,845	32,688	▲ 5,842	▲17.9%	EPS 92.55円 ROE 3.7%
親会社に帰属する 当期純利益	16,100	19,013	▲ 2,912	▲15.3%	

期末配当予想を修正 DOE4%採用により年間配当は44円の増配予想



24.03期より、配当方針をDOE4.0%に変更し、株主還元の充実を図ってまいります。自己株式の取得終了による配当予想の見直しにより、期末配当予想を57円（+5円）、年間配当予想を100円（+5円）に修正しております。配当性向が100%を超える見込みとなりますが、一時的な収益性の悪化が原因であり、株主還元の方針に変更はありません。

1株当たり配当金とDOEの推移



ROE8.0%達成時

DOE4.0% = ROE8.0% × 配当性向50%

		ROE		配当性向
DOE 4.0%	=	4.0%	×	100%
		6.0%		67%
		8.0%		50%
		10.0%		40%



03 輸送事業（特積み）について

特積み：物量・単価の状況

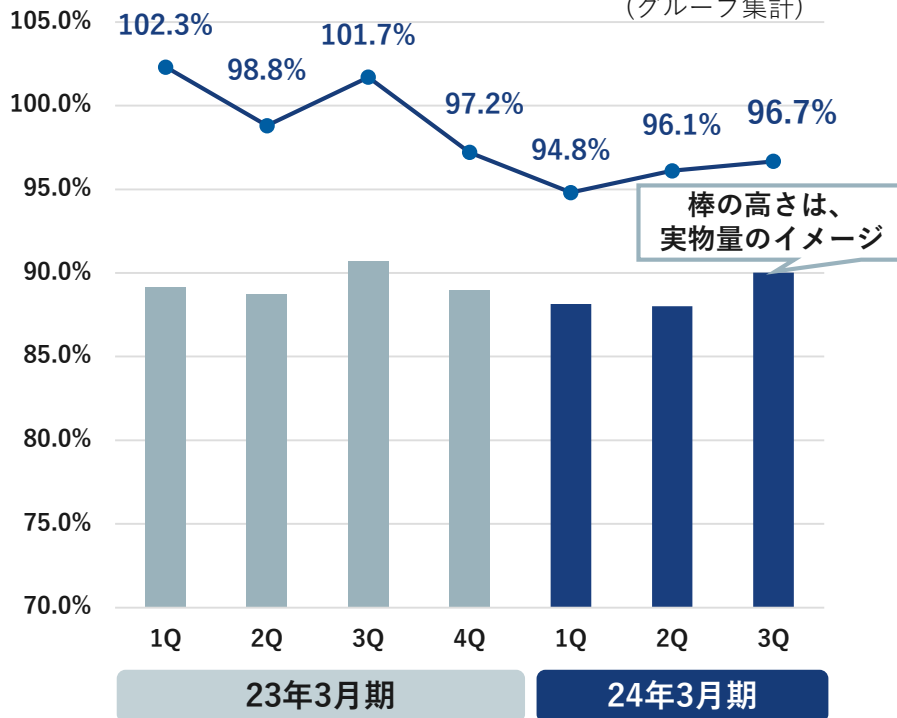


特積みの物量は

物価上昇により減少局面が続くも上向き

日当たり物量（前年同期比）

（グループ集計）

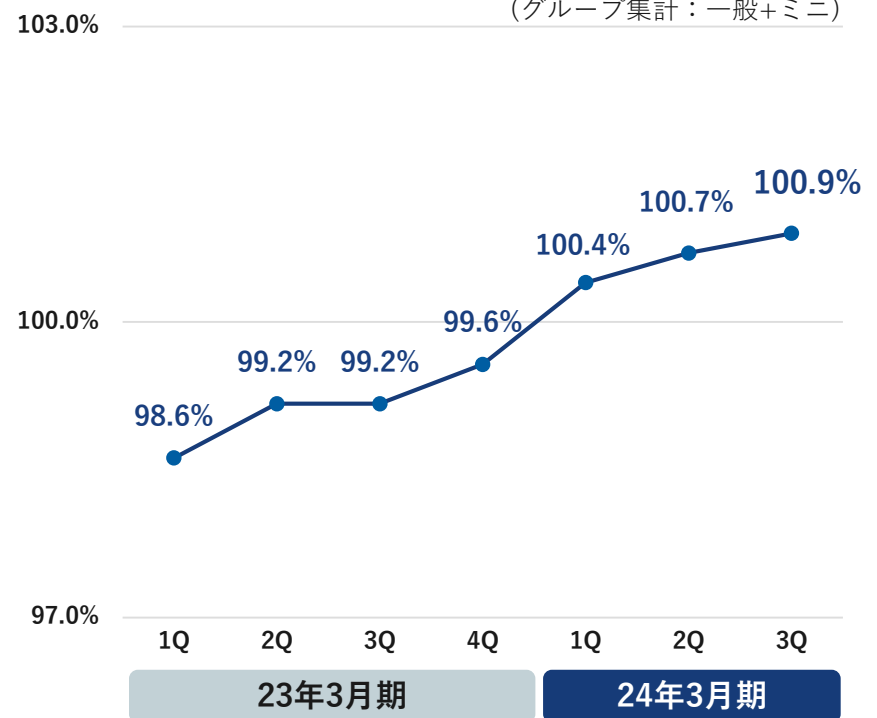


適正運賃収受は進展も

緩やかな単価改善が続く

kg単価（前年同期比）

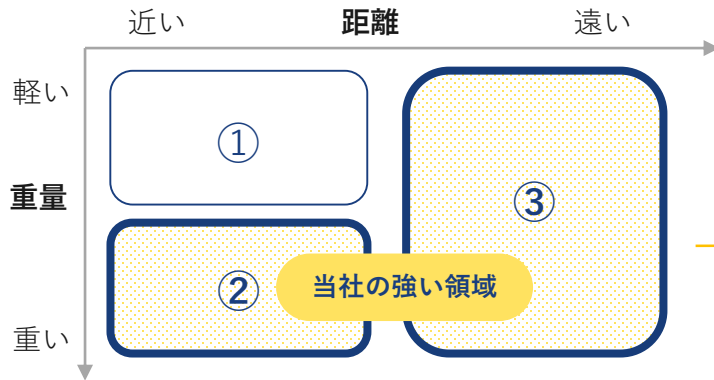
（グループ集計：一般+ミニ）



適正運賃の收受による単価向上（西濃運輸）



重量・距離帯別領域



(西濃運輸：一般)

重量・距離帯別 前年同期比
(上段：第3Q実績、下段：4-12月累計)

重量帯／距離帯	日当り物量	運賃收受率	kg単価
①300kg以下／ 500km以下	96.2% (96.0%)	100.1% (99.9%)	101.1% (100.9%)
②300kg超／ 500km以下	94.6% (94.5%)	100.7% (100.6%)	102.3% (102.1%)
③500km超	96.0% (94.5%)	101.4% (101.2%)	101.5% (101.5%)
全体	95.6% (95.1%)	100.8% (100.6%)	101.9% (101.6%)

施策展開

②高重量、③長距離帯を中心に、
全地帯別での適正運賃收受を展開

進捗

kg単価前年比（3Q実績）

目標 **102.7%** 実績 **101.9%**

課題

- インフラ維持などのための中長期的な費用増を加味すると、当初、2024年3月末時点で103%に設定した伸長から、更なる追加策が必要
- 現状、同じ取引高階層においてもばらつきがある単価を平準化していく必要がある
- お客様ごとの運賃改定サイクルが長いことが課題

来期を見据えた、適正運賃収受に向けた施策展開 (西濃運輸)



施策1

世の中の運べないリスクが顕在化していく中、適正運賃収受の交渉機会を高めることで、今後、1~2年で運賃伸長率110%(2023年3月期比)を目指して行く
 ⇒2024年4月の前年同月比 6%伸長に向け、4%程は見込めている
 残り2%については、今後も2年以上改定の無い荷主様の料金改定を進め、第4四半期中の交渉を加速させ取り組む

施策2

上期は、適正運賃収受の取組みを地帯②(近・重)、③(遠)で展開してきたが、
 下期は、大口顧客への交渉に注力して、お客様への+α価値提供(適正運賃収受)の推進を図る

施策3

顧客別kg単価リストに前回の改定日の記載など、仕組みの導入によるターゲットの明確化と優先度を表示することで、継続的に進めて行く

施策4

燃料価格高騰が続くことを見込み、残り約5%の燃料サーチャージ未適用荷主に
 対する交渉を適正運賃収受と併せて行う
 ⇒サーチャージ収受率 95.8%(2023年12月末現在) 参考値 2023年9月 収受率95.2%

中長期的な目線では是正頻度も意識した、適正運賃収受の施策展開を進める



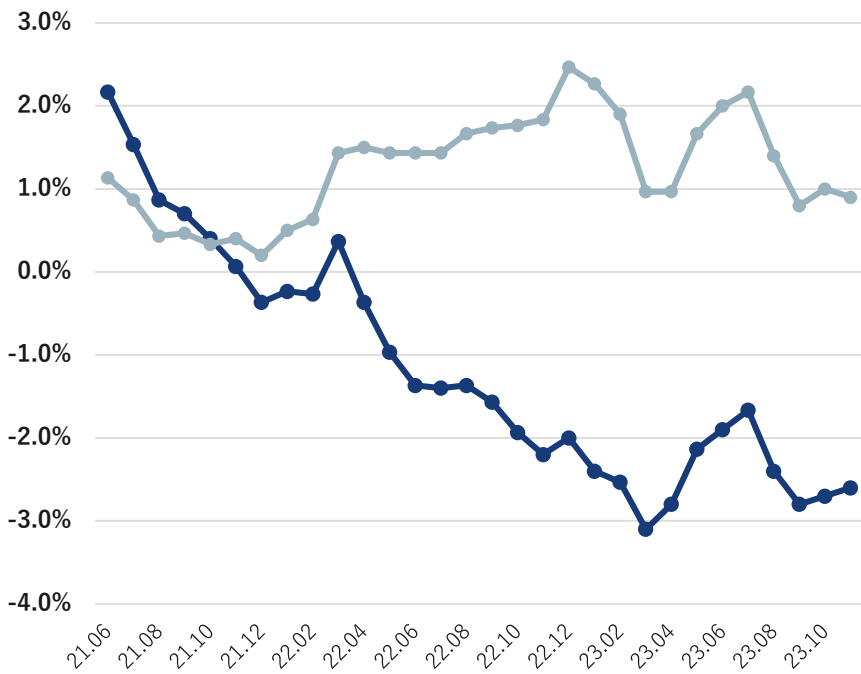
Appendix

特積みの物量 物価高で家計消費の落ち込みが続く



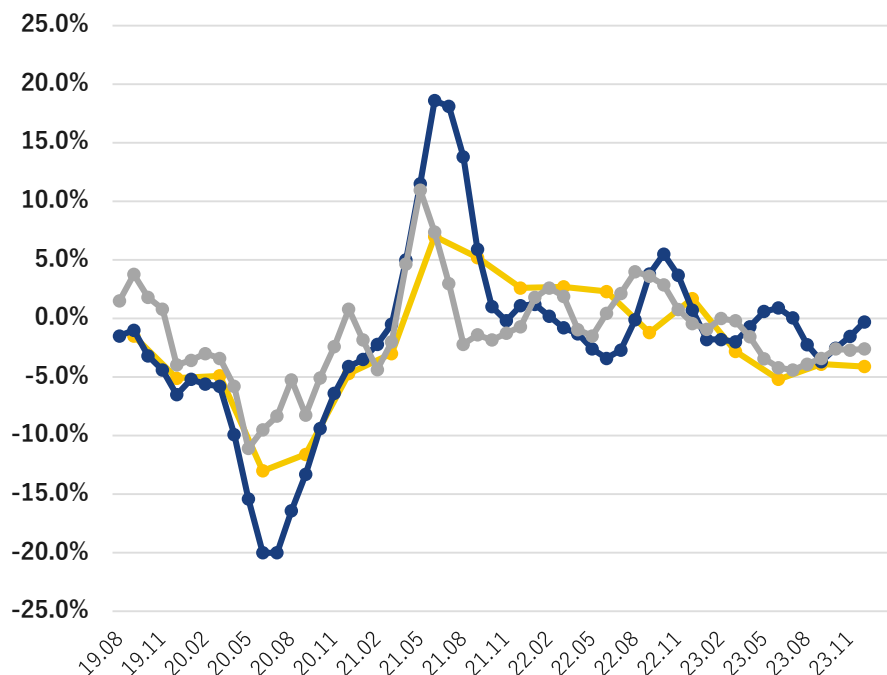
賃金指数は上向きにあるものの、物価高の影響で実質賃金指数は悪化
その結果、家計消費支出の弱まりが続き、物量は回復せず

賃金指数の推移



● 実質賃金指数 (前年同月比) 3か月移動平均
● 名目賃金指数 (前年同月比) 3か月移動平均

当社物量と鉱工業生産指数・家計消費支出の推移



● 当社物量 (前年同月比)
● 鉱工業生産指数 (前年同月比) 3か月移動平均
● 実質家計消費支出 (前年同月比) 3か月移動平均

(出所) 総務省統計局 家計調査 (家計収支編)、厚生労働省 毎月勤労統計調査

東証「資本コストや株価を意識した経営」のポイントと事例で当社の事例が紹介されました



事例29

セイノーホールディングス (9076)

TOPIX
Mid400

陸運業

ロードマップ2028 逆ROEツリーで価値創造を実現します

種ぐかの向上、積極的な株主還元で、3-5年以内にROE8.0%達成を目指す

ROE改善のドライバー

1	特種事業の着実な成長	売上高成長 年率4%水準の コア・ビジネス成長 +M&A	ROE8.0%以上 営業利益年率 10%以上の成長 EPS年率 15-20%の成長
2	ロジスティクス事業の成長		
3	貸切事業の拡充		
4	M&A・オープンイノベーション		
		利益率改善	
1	特種事業の効率化を通じた収益性向上	営業利益率5.8%水準へ (23.03期 4.5%)	
2/3	高収益のロジスティクス・貸切事業の構成比拡大		
		資本政策	
5	DOE4.0%以上の配当と継続的な自己株式の取得 (24.03期は300億円を予定)	自己資本比率を適正水準へ (23.03期 63.2%)	

● 2028年に目指すROEの水
準を示し、そこから逆算して、
ROEを構成する要素ごとに
改善に向けた取組みを記載
(→ポイントⅡ. ④)

● 従業員持株会を活用し、一定期間
終了後に期間中の株価上昇分を会
員に分配 (→ポイントⅡ. ③)

投資者の評価ポイント

各取組みがどのように企業価値向上に繋がるのか、ロジックツリーを用いてわかりやすく示されるなど、対話の深化に繋がる開示が行われている。また、従業員持株会を活用して、従業員に対して中長期的な企業価値向上のインセンティブを付与する取組みなども、企業価値向上の実現に向けた経営を加速させる取組みとして評価できる。

企業価値向上 = 社員の経済価値となるよう 従業員持株会を充実

従業員に対して中長期的な企業価値向上のインセンティブを付与すると同時に、福利厚生的な増進策として、持株会の加入を促進。

保有株式数

- 企業価値向上→社員の経済価値に繋がるように従業員持株会を強化
- 従業員持株会の概要
会社数 6,280社
保有株 219万株
(株主総数160)
- インセンティブプラン
22.03~26.03 (4年制)
期間終了後に、期間中の株価上昇分を
会員の積立株数に応じて分配
- PBR1倍超に向けて、従業員が目標と
成果を共有できる

出所：セイノーホールディングス株式会社 Green物流の実現による企業価値向上に向けて長期のありたい姿とロードマップ2028 (2023年6月12日) 17ページ、44ページ
https://www.seino.co.jp/seino/media/pdf/lib/shd/ir/account-settlement2-03-4037202403_1setsumei.pdf

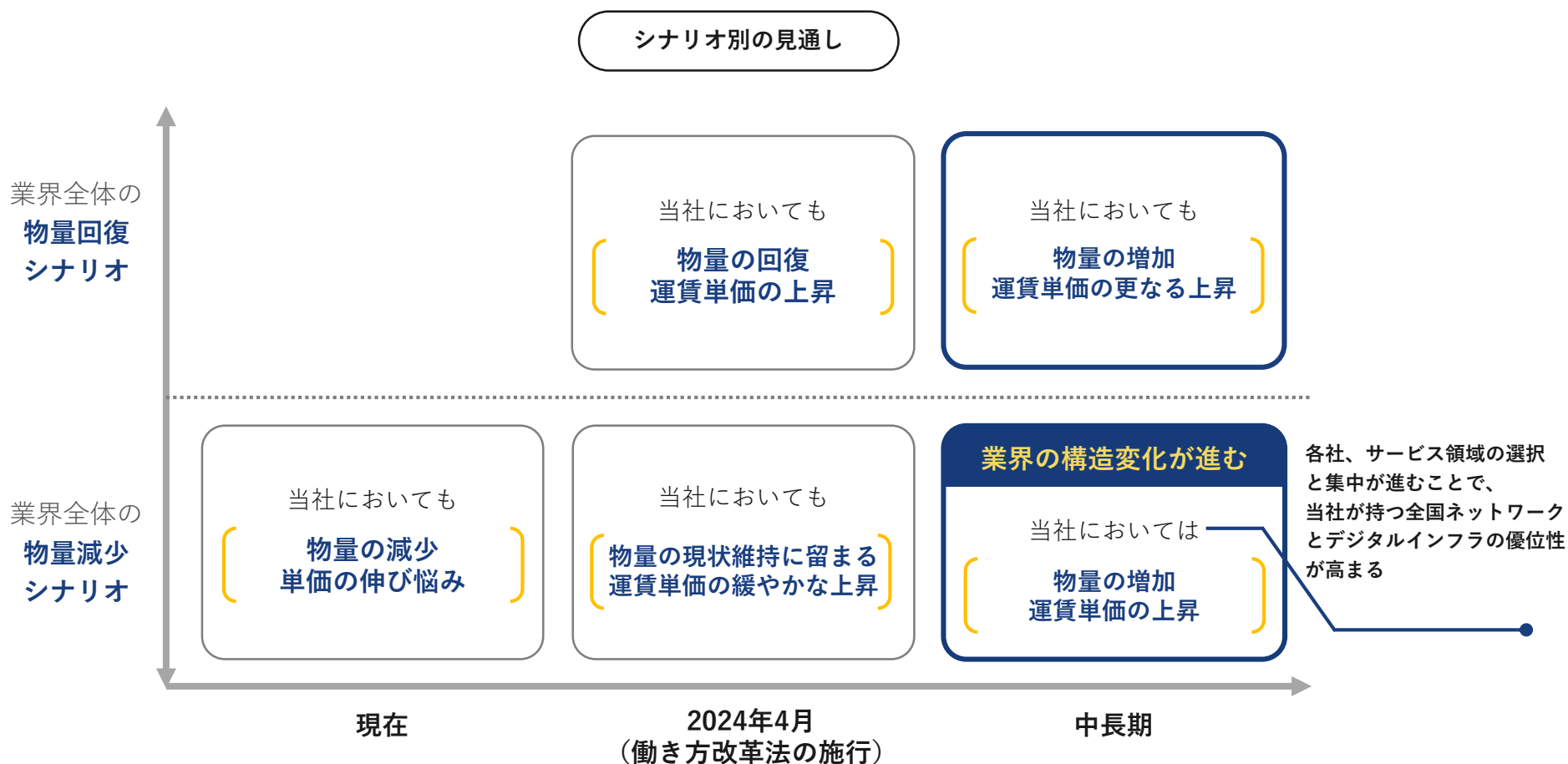
© 2024 Japan Exchange Group, Inc., and/or its affiliates

(出所) 株式会社東京証券取引所 投資者の視点を踏まえた「資本コストや株価を意識した経営」のポイントと事例 (別紙) 事例集 2024年2月1日 65ページ、66ページ
<https://www.jpx.co.jp/news/1020/20240201-01.html>

(再掲) 来期以降の見通し



現状は物量減も、2024年問題を契機に当社においては
シナリオの変化に関わらず、中長期的に回復・増加の見通し

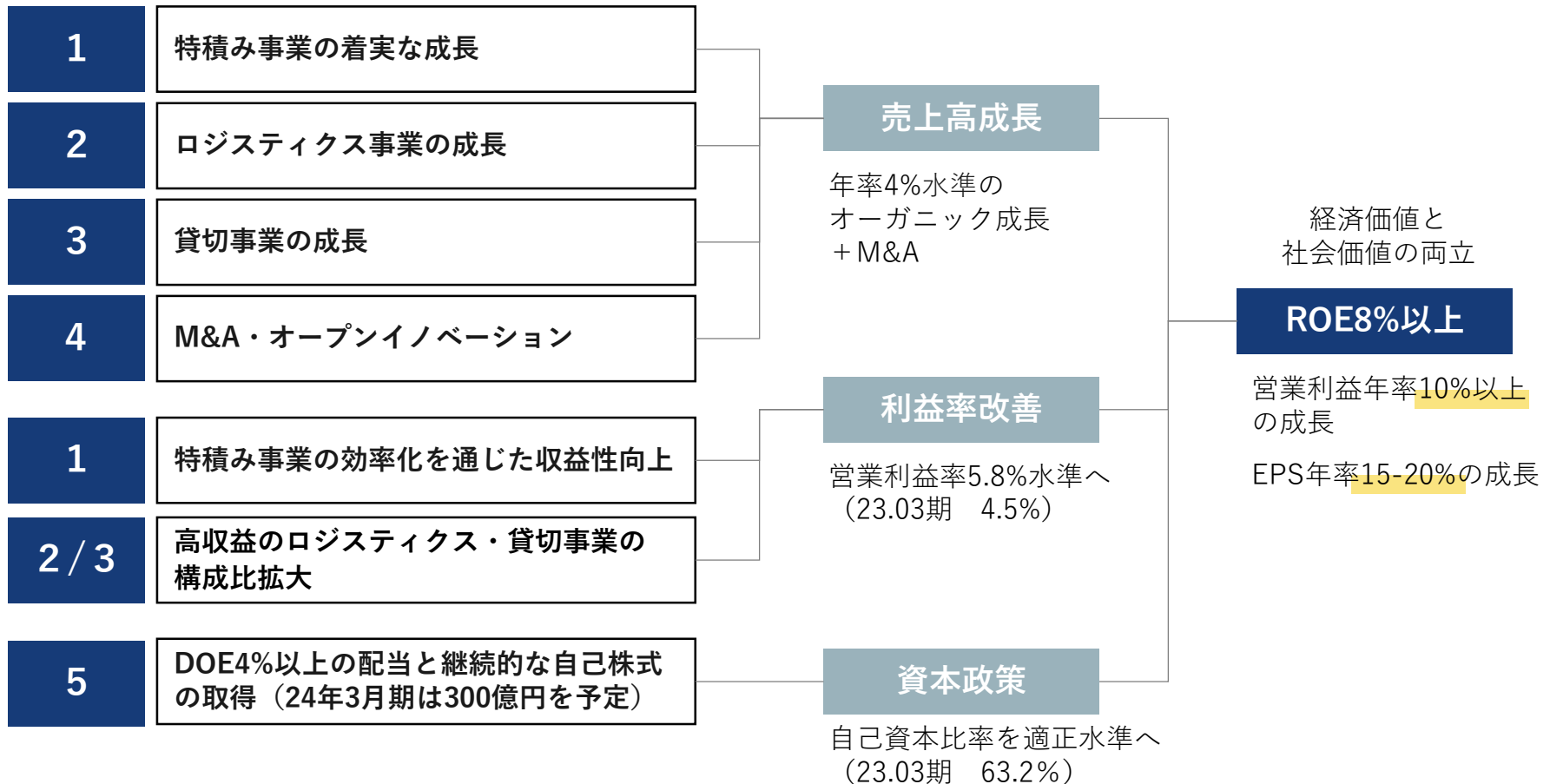


(再掲) ロードマップ2028 逆ROEツリーで価値創造を実現します



稼ぐ力の向上、積極的な株主還元で、3-5年以内にROE8%達成を目指す

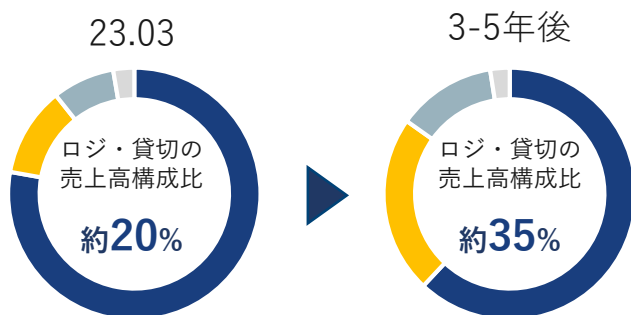
ROE改善のドライバー



(再掲) ロードマップ2028 成長と資本効率改善を両立

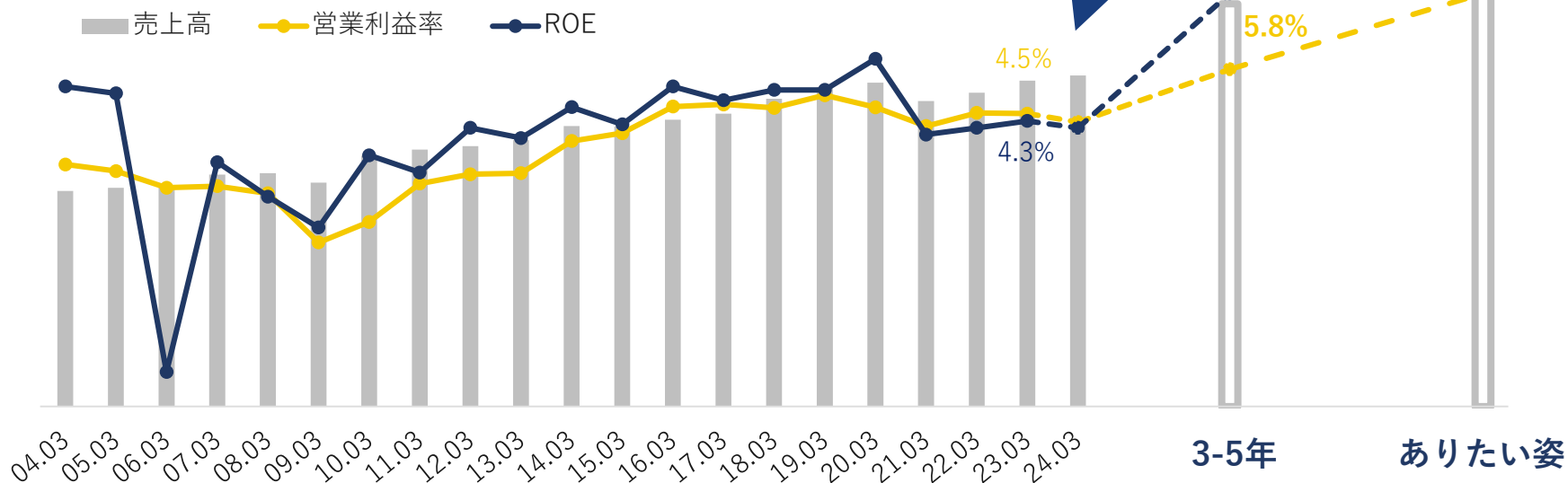


輸送事業の売上高構成比 (西濃運輸)



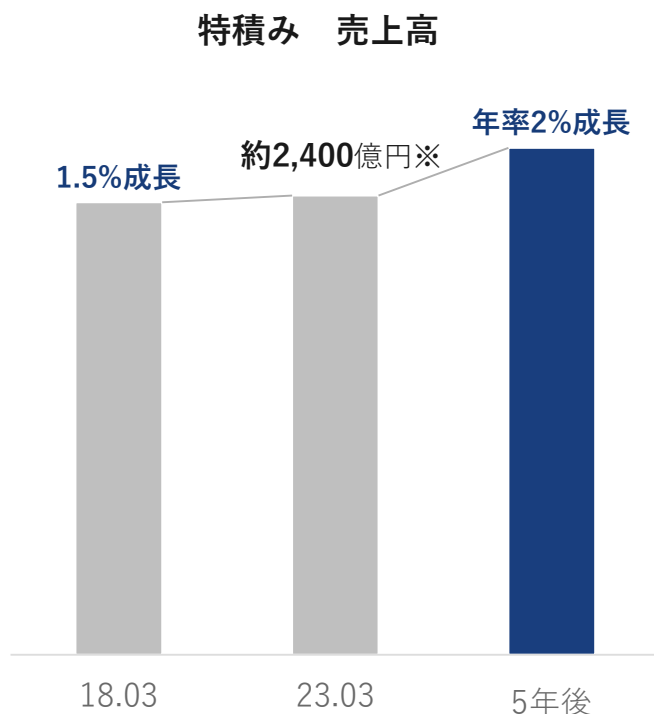
利益率の高いロジ・貸切を
3分の1水準へ

バックキャスト





特積みは安定成長を目指す



利益成長に向けて

1. 適正運賃収受 (長距離・高重量帯を中心に)
2. 積載効率の向上・
運行コストコントロール
3. 物量の確保
(ロジスティクスの拡大・O.P.P.の推進)

競争力

- 全国をカバーする路線ネットワークを満たす1日5,900便を有した運ぶ力と全国736拠点と26,532人による捌く力
- 小口からロットまで運ぶものを選ばない対応力

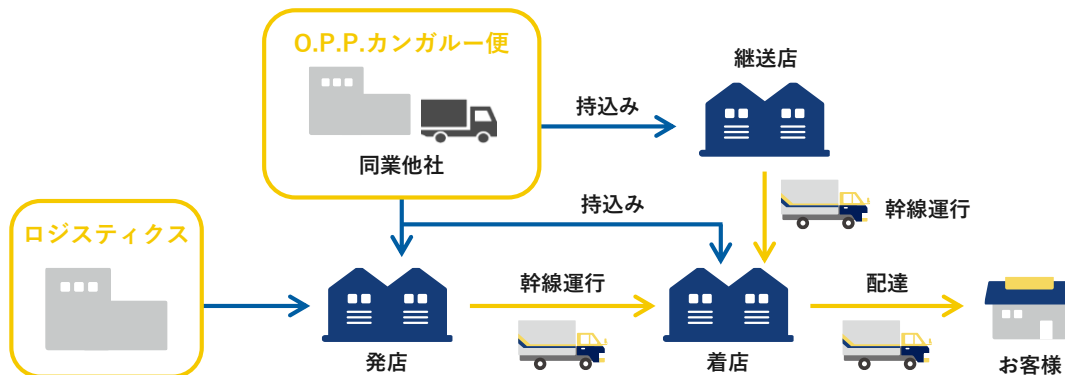
課題

- 施設リノベーションによるコスト増 (インフラ・ネットワークの維持コスト)

(再掲) 物量の確保



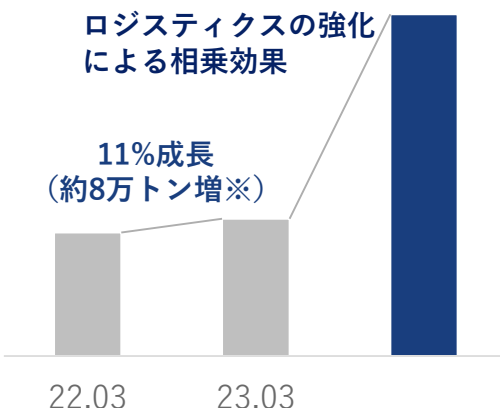
幅広く、当社のインフラを開放



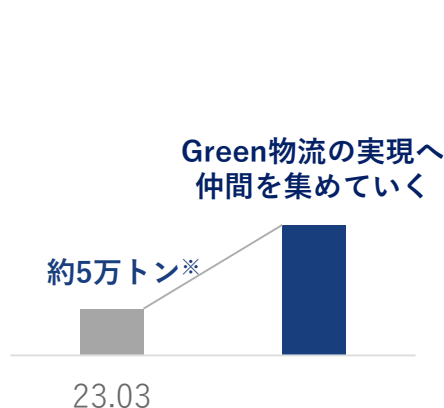
物量の確保に向けて

- ロジトランス施設や外部倉庫の賃借を活用したロジスティクスの拡大による相乗効果
- 市場がシュリンクしていく中、当社は自社インフラを幅広く開放することで物量の確保に取り組む
- 他社との輸送システム連携により、お客様の利便性を損なうことなくOne Stopを追求

ロジスティクスに関連した取扱物量



O.P.P.カンガルー便取扱物量

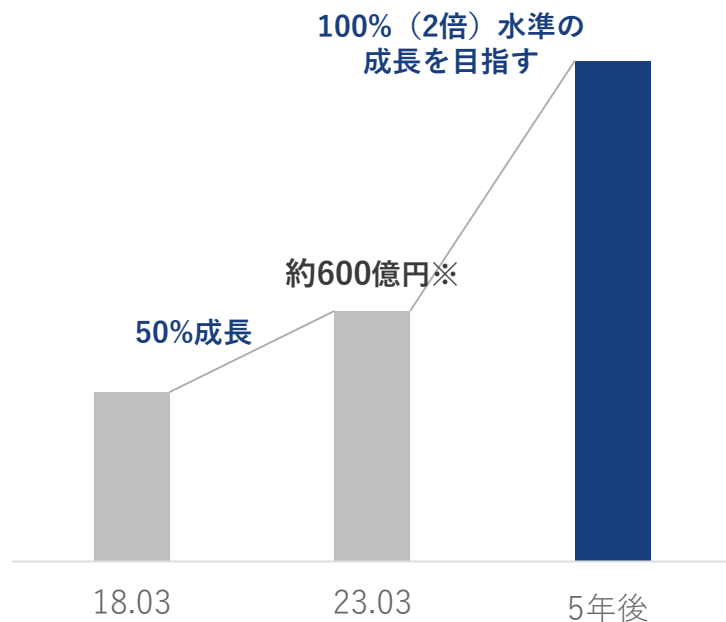


※新西濃運輸としての参考物量



ロジスティクスは注力領域

ロジスティクス 売上高



利益成長に向けて

1. 高機能ロジスティクスの提供
2. 産業別ソリューション展開
3. 成長実績に裏付けされた強みとニーズ

競争力

- 全国輸送ネットワークを基にした運ぶ力
- 全国展開を優位性にベストな場所でのロジ提案が可能
- 豊富な専門営業ならびにオペレーション、管理人材

課題

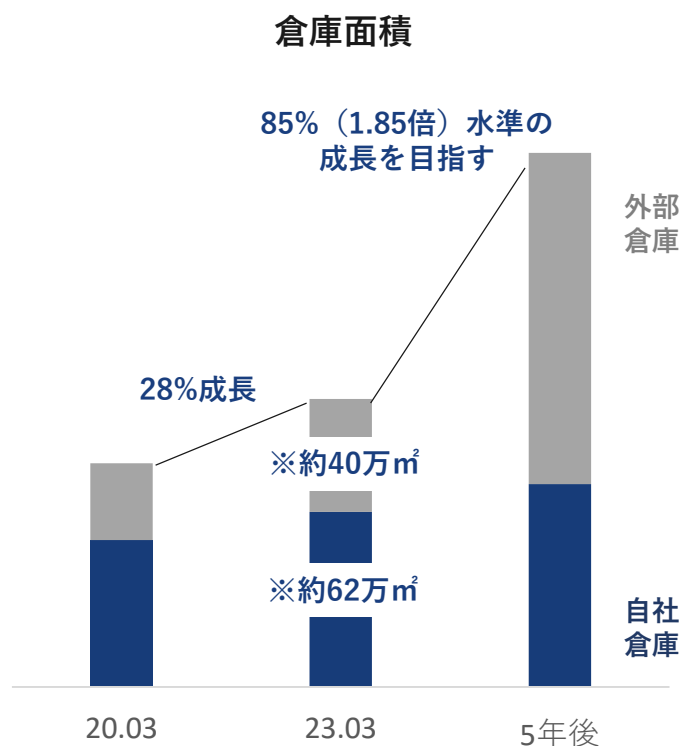
- 倉庫面積確保とスピード

※セイノーHDとしての参考数値 (管理会計ベース)
ロジスティクスから派生した輸送売上も含む



全国展開の優位性を活かした共同化・効率化による サプライチェーン全体の最適化からGreen物流を実現

倉庫確保のイメージ



※セイノーHDにおける倉庫面積

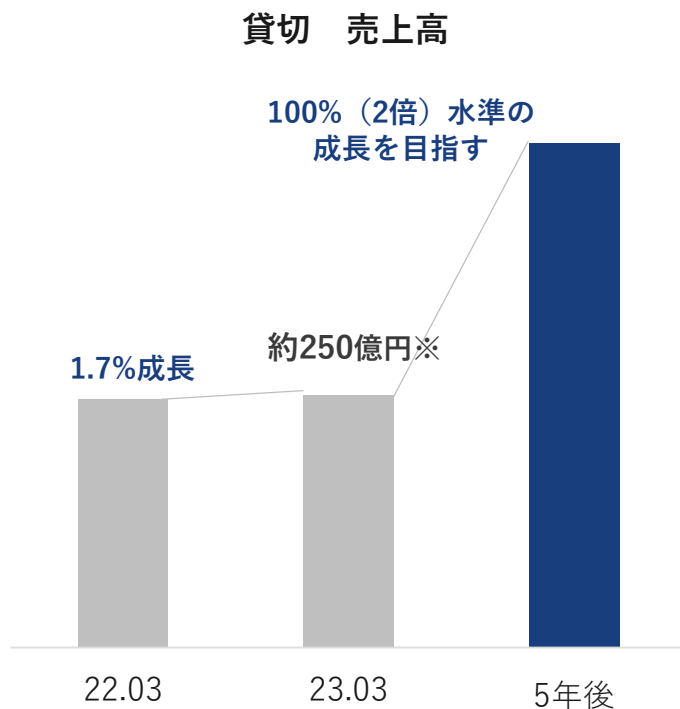
展開の強化に向けて

- 全国どこでもベストな場所でリードタイムを損なわず、クラウド型のロジスティクスを提供
- 全国ネットワークに直結したロジ・トランス施設の展開
- ニーズの高いエリアに物流センターを重点配置
- 事業会社毎のロジ展開を見直し、セイノーHDにロジ関連4事業部を新設
23.03期 79名（西濃運輸）
23.04～ 124名（セイノーHD）
- 全国パートナーの空き坪情報共有ツール「見つカル倉庫」を活用し即応性と固定費を抱えない展開を強化

(再掲) デジタルと特積みとのクロスセルで成長



貸切は注力領域



利益成長に向けて

1. 利用運送の拡大による収益構造の変化
2. デジタルプラットフォーム（ハコベル）活用による配車力の向上

競争力

- 優れたデジタルプラットフォームを活用し、全国に広がる約500名の営業専任者による特積みとのクロスセルが強み

課題

- 高度・広域なデジタルデータの取得・活用による新たなビジネス展開（商品・顧客・輸送周辺データ等）

参考情報リンク先



中長期の経営の方向性 ～ありたい姿とロードマップ2028～

説明会資料

https://www.seino.co.jp/seino/media/pdf-lib/shd/ir/account-settlement/202403/202403_1setsume.pdf

アーカイブ動画

<https://net-presentations.com/9076/20230613/xdsksdk35/>

2024年問題がもたらす影響とセイノーHDの価値向上に向けて

説明会資料

https://www.seino.co.jp/seino/media/pdf-lib/shd/ir/account-settlement/202403/202403_2setsume.pdf

アーカイブ動画

<https://net-presentations.com/9076/20231013/bxklew1/>

名証IREXPO2023（会社概要等こちらをご覧ください）

配布資料

https://www.seino.co.jp/seino/media/pdf-lib/meisho_irexpo2023.pdf

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先

セイノーホールディングス株式会社 財務IR部

〒503-8501 岐阜県大垣市田口町1番地

TEL : 0584-82-5023 FAX : 0584-82-5043

<http://www.seino.co.jp/seino/shd/>

E-mail : i.r@seino.co.jp